

# 京都教育大学FDニュース

No.73

2015年2月20日

京都教育大学FD委員会

\*\*\*\*\*

## 2014年度前期の学部授業アンケート集計結果について

教育学部授業アンケート（2014年度前期）の実施にご協力いただき、ありがとうございました。調査の概要と結果をご報告いたします。

### 1. 調査の概要

実施期間：2014年7月9日（水）～28日（月）

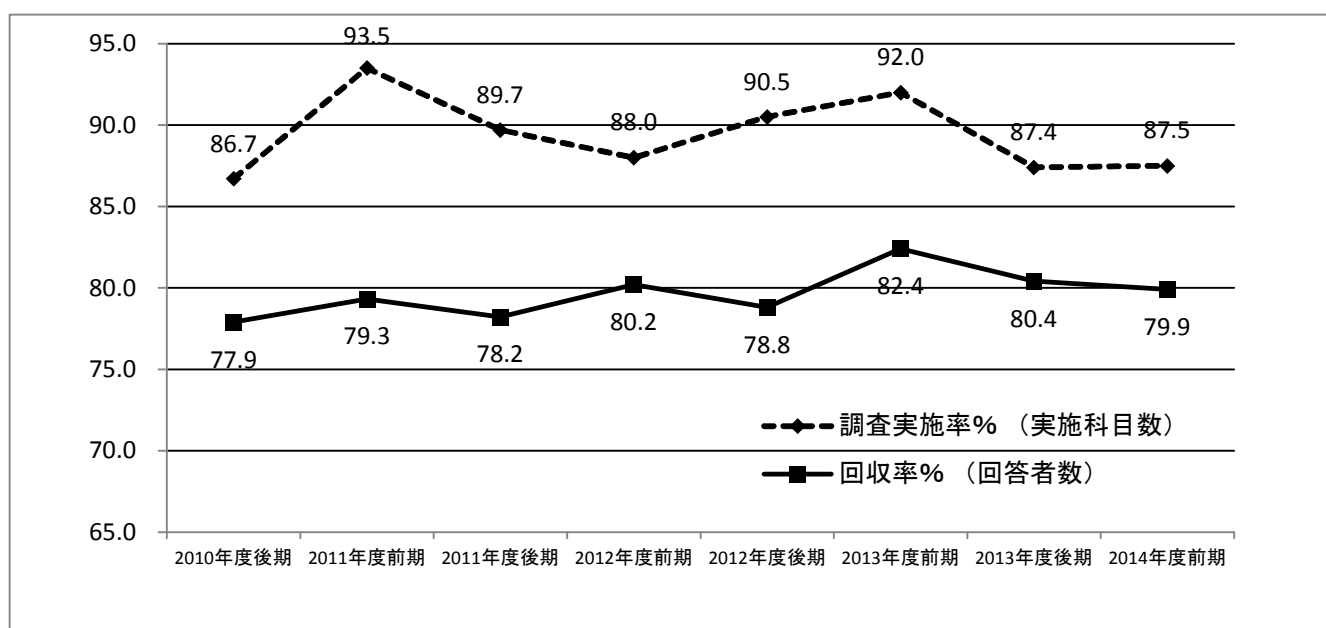
対象科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：392，実施科目数：343（調査実施率87.5%）

実施科目の履修者数：12,472名，回答者数：9,964名（回収率79.9%）

内訳：一回生3,719名（37.3%），二回生3,148名（31.6%），三回生1,946名（19.5%），四回生468名（4.7%），五回生以上63名（0.6%），回答したくない435名（4.4%），無効・無回答185名（1.9%）

### ■ 近年の調査実施率と回収率の変遷



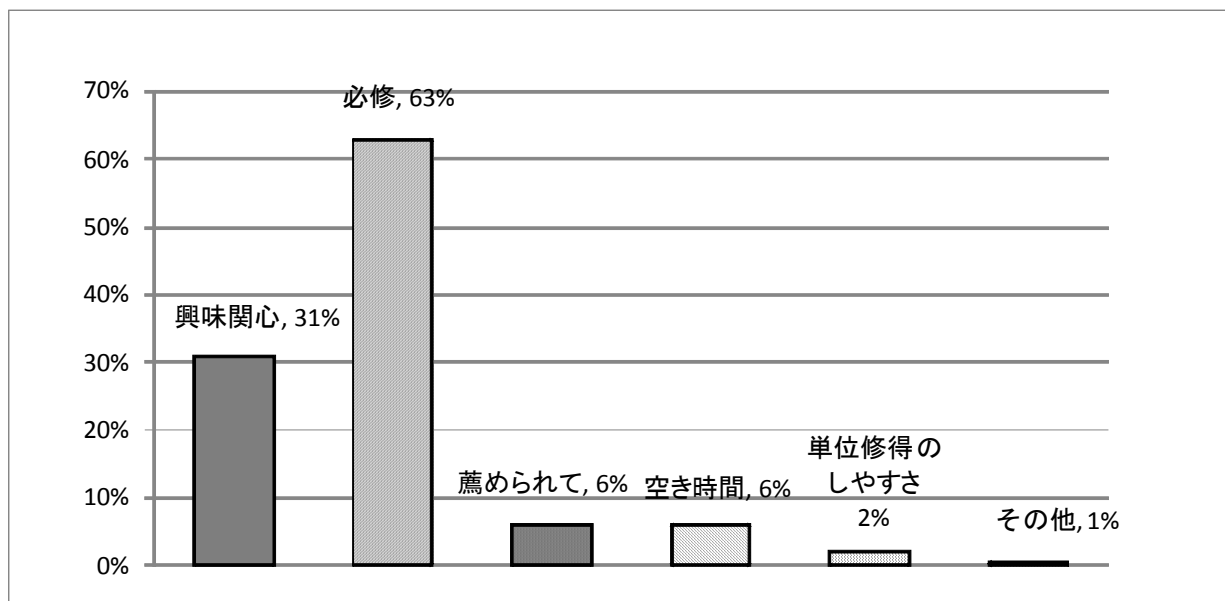
過去4年間の実施率と回収率は上のグラフの通りです。実施率は9割前後，回収率は8割前後を推移しています。前回減った実施率と回収率はどちらも回復しませんでした。未実施の理由として、元々登録者数が少なく実施時には授業出席者が5名以下であったとか、体育実技などのアン

ケート実施が難しい授業であったとかが考えられます。このような授業科目への対応策を考えることが必要に思われます。授業進捗の関係でアンケート実施の時間が取れなかったということも考えられますが、アンケートには多くの時間が必要ではありませんので、実施にご協力をお願いしたいと思います。

## 2. 結果の概要

### (1) 項目別の回答分布一覧

#### ■Q1 受講動機（複数選択可）



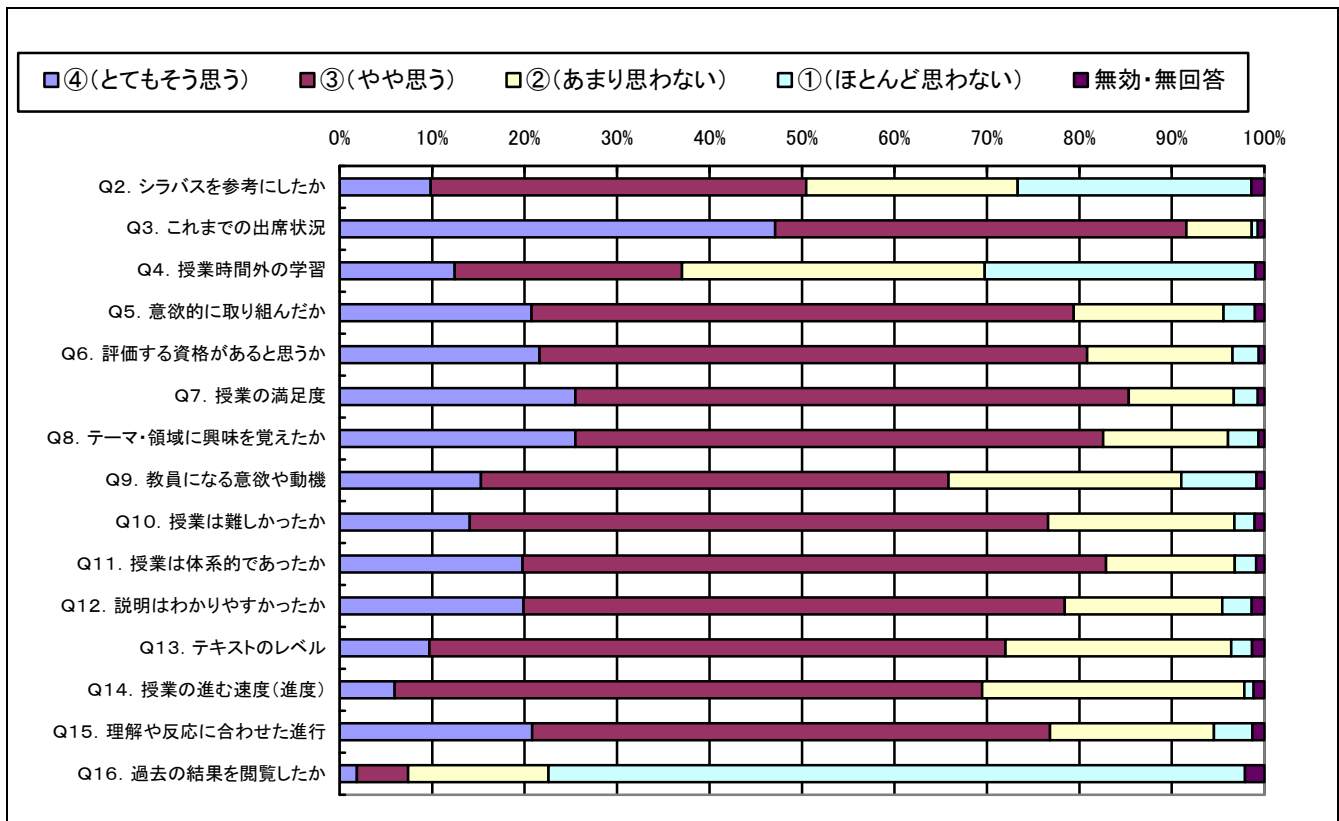
受講動機 Q1は、例年と同様に、「必修だから」が最も多く 63%となり、「興味・関心」が 31%となっています。前回の昨年度後期の結果と比べると、「必修だから」が 4%、「薦められて」が 3%増加し、「興味・関心」が 5%減少していますが、これは前期のアンケートの特徴のようです。いずれにせよ、「必修だから」が高いのは教員養成を目的としたカリキュラムであるため必修科目や選択必修科目が多く、キャップ制を導入して履修単位数に上限を設けている本学らしい結果といえるでしょう。他の項目についてはどれも 1%程の違いに収まっています。

#### ■Q2～Q16 全体回答の帯グラフ

シラバスを参考にしたかどうかの Q2 では、例年と同様に、5 割程の受講生しか「参考にした」と答えていません。必修科目が多いこともあり、学生にとっては授業を選択するという意識が低いのかも知れません。また、出席状況 Q3 でも 9 割強の受講生が「0～2 回の欠席」と答えています。出席率は良いです。授業時間外の学習 Q4 については、「1 時間未満」「ほとんどしない」という回答者の割合が 6 割となっています。この数値は 2011 年度前期には 65%に達していたものが、半期毎に約 2%ずつ減少し、2012 年度後期に 59%になった後、2013 年度前期 62%、後期 60%、そして今回の 2014 年度前期 62%と推移しています。授業時間外学習の時間を増やすためには、今時の学生の気質を考えて、課題を明確に与え、学び方を学ばせることから始めることが必要かも知れません。

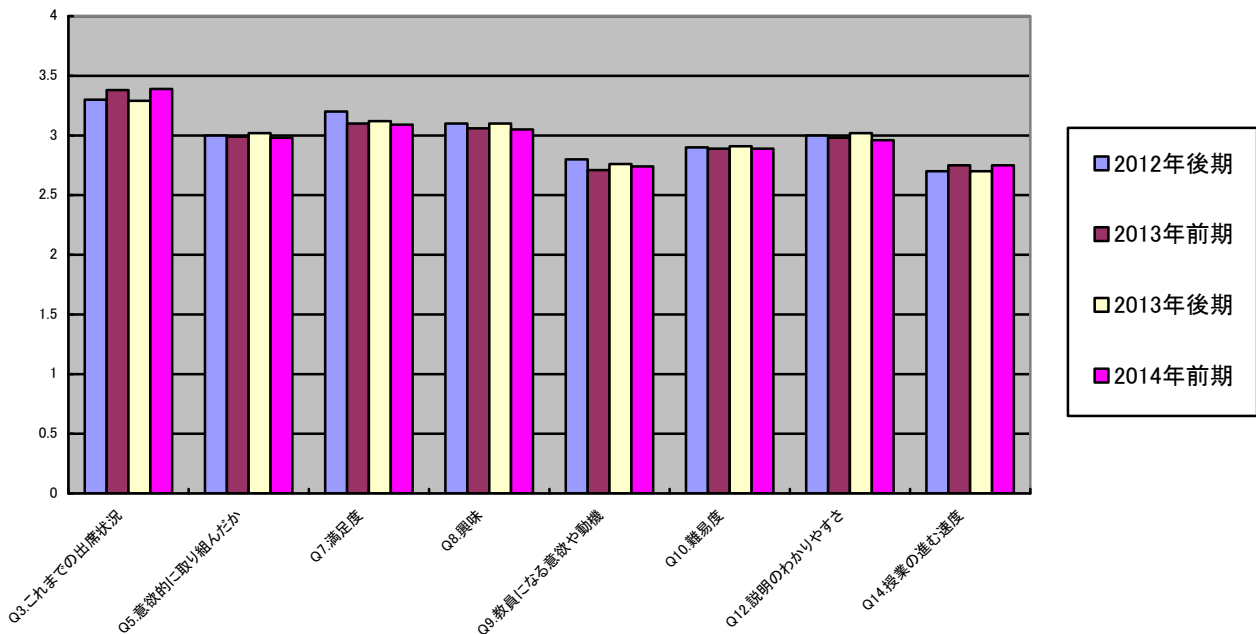
気になるのは、Q9 の教員になる意欲や動機ですが、「とても高まった」「やや高まった」と回答した者を合わせると 66%になっています。この項目は、僅かな変動ですが、前期に低く後期に高い傾向にあります。今回は前年度前期に比べて 1%程ですが増えています。これを更に増やしていくことが大切でしょう。アンケート結果の閲覧 Q16 では、約 7 割 5 分の受講生が全く閲覧をしていない

という結果でした。これは僅かずつですが増えてゆく傾向にあります。その他の項目については例年通りで変化がありません。



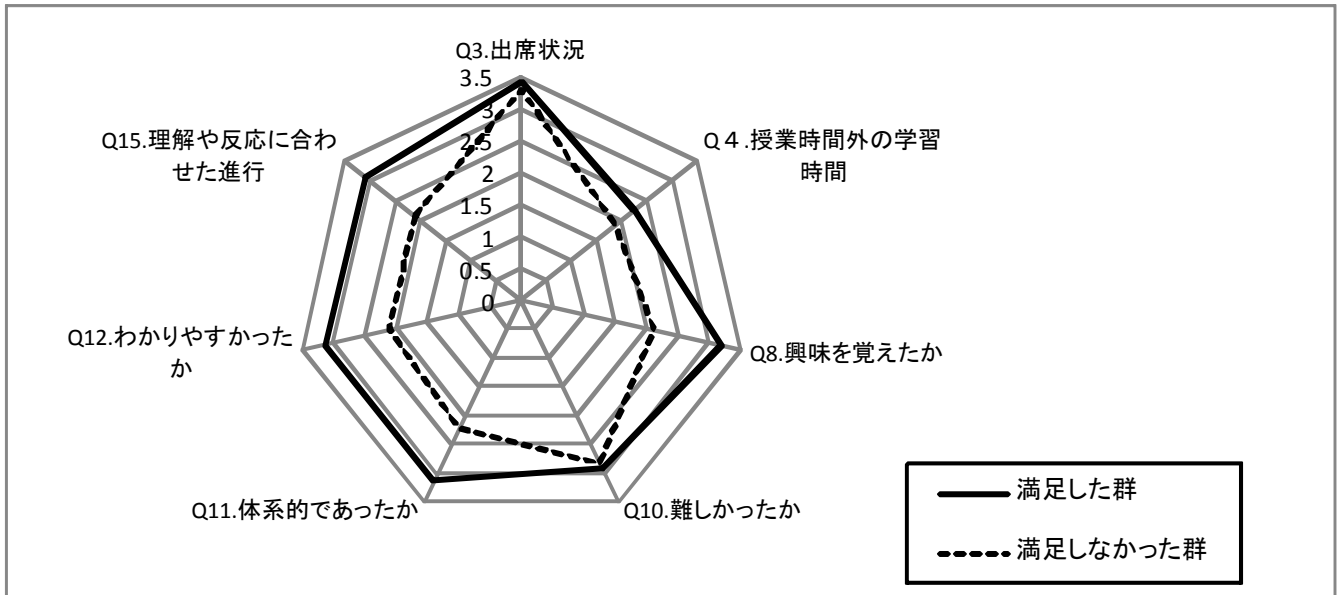
## (2) 過年度と同一項目の平均値の比較

以前から継続して実施している質問項目について、平均値を比較したものが次の棒グラフです。毎回のアンケートでも値はそれほど大きくは変化していません。「Q9 この授業を受講して教員になる意欲や動機が高まりましたか」が、「授業の進む速度」とともに、他の項目よりも評価が低いことがわかります。



### (3) 「満足した群」と「満足しなかった群」の違い

「とても満足した」「やや満足した」と回答した 8503 名（85.3%）の「授業に満足した群」と「やや不満だった」「とても不満だった」と回答した 1393 名（14.0%）の「満足しなかった群」の比較は例年通りの結果となりました。前年度前期の結果とほとんど差がありません。



満足度は出席状況や授業の難易度とはほとんど相関がないことがわかります。満足していなくても出席状況は良く、満足していても授業は難しいと答えています。また、満足度は授業時間外の学習時間とはあまり関係がありません。満足した群の内でも、授業時間外の学習時間が 1 時間未満の者は 33%おり、ほとんど費やさなかった者は 27%います。

以上の結果を参考に、今後の授業改善に役立てていただければ幸いです。

\*\*\*\*\*

「平成 26 年度 大学院教育学研究科 授業アンケート」と「平成 26 年度後期 教育学部 授業中間アンケート」へのご協力ありがとうございました。これらの集計結果は次号以降の FD ニュースで報告させていただきます。

12 月 17 日に開催した「平成 26 年度第 2 回 F D 研修会 授業力を向上する！その 2 — 学内情報機器の活用方法にこたえます！！—」はご参加いただいた先生方より好評をいただきました。この研修会の報告も次号以降の FD ニュースで報告させていただきます。

\*\*\*\*\*

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD 委員会委員：安東（委員長），藪根（副委員長），巻本，二枝，大竹  
事務担当：高松，相原